

- 本研究会での整理として、2050年カーボンニュートラルを実現するためには、脱炭素化の有望な手段の一つとして考えられているメタネーションについては、以下の取組を進めていくことが必要。

＜今後の取組＞

- 2030年までに既存インフラへ合成メタン注入（1%以上）を開始し、メタネーションの実用化を目指す。2050年には90%注入（水素必要量1,296万トン、CO2削減量0.8億トン）し、水素直接利用等その他の方法と合わせて都市ガスのカーボンニュートラル化を目指す。
 - より高効率に合成メタンを製造できる革新的技術開発にも取り組む。
 - 再生可能エネルギーの発電コストが相対的に安価な海外のサプライチェーン構築を進める。
 - これらの取組を通じて、2050年までに合成メタンの価格が現在のLNG価格と同水準となることを目指す。
- 他方、2050年カーボンニュートラルの実現という高い目標を達成するには、各事業者等がそれぞれ単独で取り組むことは難しく、供給側・需要側の民間企業や政府など関係する様々なステークホルダーが連携して取り組むことが重要であると考えます。
- このため、例えば水素やアンモニアなど他燃料のように、**官民が一体となって課題解決に向けた取組を推進する体制の整備**が必要ではないか。

＜見通し（案）＞

	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	～2030年	～2040年	～2050年
●メタネーション 目標コスト 2050年 40～50円 /Nm ³	<ul style="list-style-type: none"> ・2040年頃の商用化に向けた大規模実証、コスト低減 ・低コスト化に向けた新たな基礎技術の開発（共電解等） 					<ul style="list-style-type: none"> ・更なるコスト低減による導入拡大 ・実証による低コスト化 		